

子どもたちに 核兵器のない世界を

核兵器廃絶めざす
全教メールニュース
第19号 2009.11.30

1200万筆の署名目標を達成し、被爆国日本からニューヨークへ、核兵器全面禁止の流れをリードしよう 11/28～29 NPT代表派遣・1200万署名推進 日本原水協全国交流集会報告

NPT再検討会議までに1200万筆の署名をやりきるため、全国44都道府県から78人、14団体・11個人、合わせて104人が参加し、2日間にわたり豊富な経験、達成のための構えを交流討議し、決意を固めあいました。

最初に、高草木事務局長が、「1200万筆の署名目標を達成し、被爆国日本からニューヨークへ、核兵器全面禁止の流れをリードしよう」と題して、核廃絶にむけて変わる世界の動き、これを妨げる核抑止力論など最新の情勢を明らかにするとともに、ニューヨーク行動から2010世界大会成功までの世論の動員の重要性について報告しました。また、署名の到達が252万筆で、目標1200万の22%にとどまっていることを報告し、何としても1200万筆を達成することを訴えました。

討論では、次のことが注目されました。地域では、住民ぐるみの運動が広がり、情勢の変化を署名に結実させる可能性があることを示しています。都城市の来住さんの報告は、署名は核兵器全面禁止・廃絶条約を核保有国に決断させるためのものであり、全市民を視野にとりくむべきだと訴え、共感が広がりました。団体では、新婦人・民医連が頑張っている半面、労働組合の立ち上がりが遅れています。加盟団体が立ち上がり以上に、街頭の反応は高まっており、党派を超えた共同の広がりも生まれています。全教から磯崎国民共同局長が発言し、京教組女性部、全教千葉、愛知高教組のとりくみを紹介し、子どもたちに希望と未来を語れるように、核兵器廃絶を実現するために署名35万筆を達成する決意を表明しました。

最後に、高草木・原水協事務局長は、5年前・10年前のNPTの時とは世界は全く変わっているが、これを「核兵器のない世界」を追求するだけで終わらせてはならない、達成するために闘わなければならないと述べ、次の3点についてまとめの発言をしました。

- 1) 世界の変化をつかんで、これを前にすすめる新たな行動が必要だ。徳島県では銀行へまで訪問して署名を頼んでいる。都城市では、活動家も市長も意識を変え市政が市民に核廃絶で行動することを呼びかけている。
- 2) 福井の民医連は200人足らずで青年が半分以上だが、98%が平和行進に休暇をとって参加している。核兵器廃絶の運動で次代を担う青年を育てている。労働組合が動きが遅れているのには理由がある。さまざまな攻撃が労働者に集中している。実情と困難さを聞き、その中での努力を励ましていく必要がある。労組は必ず立ち上がる。
- 3) 国連では署名受け取りを準備し期待している。原水協の組織を強化し、何としても1200万署名を国連に持ち込もう。

日本平和大会 in 神奈川は 沖縄の基地闘争との最大の連帯集会 全教各組織から代表参加、近県からの一日参加も広げよう

国際フォーラム
12月10日～11日
横浜市技能文化会館

開会総会 12月11日(金)19時～ 横浜・関内ホール
分科会・シンポジウム 12日(土)10時～16時
閉会総会 12月13日(日)10時～12時 横須賀市文化会館